



# 一乗小だより

深く考える子  
進んで取り組む子  
思いやりのある子

福井市一乗小学校 第62号  
令和7年6月27日発行  
TEL 43-2024 FAX 43-2025  
E-mail : [itijo-e@fukui-city.ed.jp](mailto:itijo-e@fukui-city.ed.jp)

## 間もなく プール開き



子どもたちが待ちに待ったプール開きがまもなくとなりました。6月30日(月)が初日です。これまで、教職員やプール関係業者により清掃や点検等が行われ、少しずつ準備を進めてきました。今週しばらくは雨が続くようですが、天気予報では来週月曜日は晴れの様です。熱中症アラートや雷注意報が発令されると実施が難しいのですが、着衣泳法の学習を含めた全4回が無事に、安全に行われることを祈っています。

現在では、学校プール施設の老朽化が進み、施設更新に莫大な費用がかかることや施設の維持管理の業務が教員にとって業務上大きな負担になっている等、このことからプール学習を行わない学校も増えています。本校では福井市からプールの設備補充を受けながら、プール学習を行うことができます。今回のプール学習のねらいを意識しながら、みんなでルールを守りながら楽しくプール学習に取り組みましょう。

### 今年のプール学習のねらい《一乗小》

- ・水泳（水遊び、浮く・泳ぐ運動）の楽しさを体得させながら、水泳の基礎的スキルを身に付けさせ、体力の向上を図る。
- ・水泳時の事故防止やプール使用の心得を理解させ、安全や健康に留意する態度を養う。

### 《学校においてプール学習が導入された理由》

学校教育プール学習が導入された主なきっかけは、1950年代の水難事故の多発です。戦後の日本では水難事故が多発しており、子どもたちの水泳能力の向上が命を守るために重要とされました。これを受けて、1955年の学習指導要領において、全国の小中学校に対してプールの設置と水泳授業の実施が明記されました。

また、1964年の東京オリンピックを前に、スポーツ振興法が制定され、国が学校のプール建設に補助金を出すようになり、全国的に学校プールの整備が急速に進みました。さらに、文部科学省（当時は文部省）は、体育教育の一環として水泳を重視し、プール施設の整備や指導者の育成を積極的に支援しました。

これらの背景から、学校での水泳授業は「命を守る教育」としての側面と、「スポーツ振興・体力向上」の側面の両方を持って導入され、全国に広がっていったようです。

## 3・4年生 森の学習《第一回》

6月20日、3・4年生が森の学習の第1回として、こども林業体験会に参加しました。全3回計画で1回目「森の働きについて」、2回目「森林野外学習」、3回目「木工体験」を行う計画です。この学習は森林のはたらきや林業に関心を持ってもらうため、福井農林総合事務所が県内の緑の少年団を対象に、林業体験や森林のはたらきの学習、県産材を使った木工教室など、木や自然に触れる機会を提供してくれているものです。



この日は、福井農林総合事務所から林業部の職員さんが来校され、最初に森の働きについての座学があり、その後、スギ苗木育苗ハウスと育樹祭跡地の現地での学習を行いました。特に、ハウス見学では昨年、県内初の花粉の少ないスギの苗を出荷した一乗樹木苗生産組合の取組について話を聞くことができました。県内各地で取り組まれている「小花粉スギ」や「無花粉スギ」品種の生産は、花粉症の人にとって大変喜ばしいニュースとなっています。少し難しい話でしたが、子どもたちは真剣に話を聞いたり、メモをとったりしていました。



植樹祭や育樹祭が開催されたところでお話を聞きました。今ある5本の樹の名前は言えますか。昨年の育樹祭がなつかしいですね。



暑い日でしたが、みんながんばって学んでいましたね。活動が終わってほっとしたのか、いい表情をしていますね。お疲れ様でした。

## 水の事故から自分の身を守る

以前、修学旅行中に船の沈没事故に遭った小学生が全員、無事に助かった、という大きな出来事がありました。小学生がどうして無事に助かったのか。次の文章を読んで考えてみてください。そして、自分たちの生活に活かすことはないかを考え、自分の命を守るヒントを見つけましょう。

### 香川県坂出市 与島沖で修学旅行中の小型船の沈没事故が発生

船が完全に沈没したにもかかわらず、小学生や引率の教職員全員が無事でした。

全員が助かったポイントは、浮いて救助を待てたこと、船に全員分のライフジャケットが準備されていたこと、救助を待つ海中の水温がギリギリ高かったことで、大惨事を防ぐことができました。

#### どんな事故？

2020年11月19日午後4時40分頃、与島沖の瀬戸内海を航行中の小型船の船長から、「衝突事故を起こし船が浸水している」と通報があった。修学旅行中の小学6年生52人を含む計62人が乗船しており、間もなく沈没したが、全員が救助された。

#### なぜ助かったのか？

それは、ライフジャケットの数、わずかに高かった海水温、そして、子どもたちの勇気ある行動

##### 助かったポイント①

船舶には定員分のライフジャケットの備えが義務付けられていますが、12歳未満の子どもの場合には子供2人を1人に数えてよいことになっています。しかし、今回は小学生全員が着用できたことです。

##### 助かったポイント②

船が屋根を残し沈む時、船と一緒に海に引きずりこまれることを避けるために、海に飛び込み、泳いで船から離れました。当時の海水温は、約20℃でした。命に影響を与える水温の目安は17℃。で、これを下回ると命を落とす場合があります。そのわずかの海水温差が助かる要因となったのです。

子どもたちは夕暮れ時の薄暗くなっていく海に浮かびながら、~辛抱強く救助を待ったこと、お互いに声を掛け合いながら気持ちを持ち続けたこと、そして、救助する際、我先にという子どもは一人もいなかったこと、友だちの名前を呼んで『先に上げて』と言うなど冷静に行動したこと、船が沈没してから救助されるまでの子どもたちの素晴らしい行動が全員の救助につながったと語り継がれています。このような事故は二度と起きてほしくないですが、もしもの時にどのような行動ができるのかが大切ですね。

..... 切り取り .....

学校へのご意見や感想をお知らせください。

こちらからも可 →→→


年 名前

(無記名でも構いません)

